

### 第3回千里浜海岸保全対策検討委員会 講事要旨

1. 日 時：平成 18 年 12 月 26 日（木）13 時 00 分～15 時 00 分
2. 場 所：県庁 1 1 階「1 1 0 2 会議室」
3. 出席者：石田委員、川村委員、玉井委員、池本委員、塚脇委員、本吉委員、中江委員  
山田 主任研究官（福濱委員 代理）  
（中村委員、西澤委員は欠席）
4. 議題
  - （1）講事公開の可否について
  - （2）第2回検討委員会における講事要旨の確認
  - （3）千里浜海岸の保全と活用について  
技術専門部会からの中間報告  
第3回検討委員会での主な議論項目
  - （4）各委員からの質疑・意見
  - （5）第3回検討委員会のまとめ
  - （6）今後のスケジュールについて
5. 議事概要
  - （1）長原技監から開催の挨拶が行われた。
  - （2）委員長から講事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。
  - （3）事務局から第2回検討委員会における講事要旨の確認が行われた。
  - （4）石田部会長から「千里浜の保全と活用として、技術専門部会からの中間報告、第3回検討委員会での主な議論項目」について報告、説明が行われた。  
各委員からの主な意見・質問は次項以降の通り。
  - （5）事務局から今後のスケジュールの説明が行われた。
  - （6）事務局から閉会の挨拶が行われた。

討議者	討議項目	小項目	内容
玉井委員	侵食要因の把握	土砂動態	保全対策工について検討するためには、千里浜海岸から侵食された土砂が、どういう動きをしているのかを把握することが重要である。
玉井委員			漂砂イメージ図の漂砂方向だけでなく、国のデータなどを使って量的な検討も必要と考える。 もう少し広域的に、定量的な土砂動態の把握が必要ではないか。
石田委員長			難しい面があるが、定量的な土砂収支について、さらに部会で検討したい。
池本委員	対策の検討	基本方針	現状の豊かな自然環境を守るという目標を持って、環境に影響が少ないように考えていくということも重要である。
山田委員		総合土砂管理	最近、流砂系全体で土砂の貯まっている箇所と足りない箇所の土砂バランスを改善するために、総合土砂管理を導入する流れであるので、千里浜でも検討すべきと考える。
石田委員長			総合土砂管理とは、河川やダムからの流出土砂量を増やしたり、金沢港の浚渫土砂や滝港の離岸堤背後の土砂など過剰堆積土砂を侵食区域へ利用することで、河川域から河口、海岸域を全体で土砂収支を管理することである。 ただ、地元調整などの課題がある。

討議者	討議項目	小項目	内容
川村委員	対策の検討	養浜材 入手地点	内灘海岸では堆積が相当進んでいるようであるが、どのような粒径か。
石田委員長			西防波堤で屈折し、手取川からの直接流れついたものと千里浜から流れついたものもあると思われるが、粒径は大きいものが多い。 岸沖方向で数地点底質調査を実施すればさらによく実態を把握できる。
中江委員			陸地の砂は養浜材として使えるのか。量的・質的に問題ないのか。また、場所はどの辺りか。
石田委員長			能登有料道路より東側の砂なら質的には問題ない。
塚脇委員			はっきりとしたことは言えないが、背後砂丘の標高 2m 程度までは海の砂で、それより上は飛砂によるものであろう。 千里浜の砂丘は貝殻が少ないので、海の砂か飛砂によるものかの判別は難しいが、調べれば有る程度分かると思われる。
石田委員長			物理特性が同じであれば、海の砂でも飛砂でもどちらでも養浜材として使用できると思う。
塚脇委員			物理特性が同じであれば、構わないと考える。 能登有料道路の東側の砂丘は、量的に、養浜材となりうる土砂があるのか。
石田委員長			量は問題ないと考えますが、輸送距離が伸びると費用が課題となる。
本吉委員			地元では、金沢港の浚渫土砂を港沖の北側に出して欲しいという意見がある。 また、滝港周辺の堆積土砂については、取らないで置いてほしいと取ってもらいたいとの両方の意見があり、地元との議論の余地はあると思う。 既存の離岸堤は、港内埋没を防ぐことが目的の離岸堤でもあり、撤去に対する漁協の理解を得るのは難しいかもしれない。
石田委員長			滝港離岸堤背後の堆積量がどの程度か、また、採取による悪影響が出ないかを検討したい。

討議者	討議項目	小項目	内容
池本委員	留意事項	自然環境の現状把握	どの様な対策になっても、多少なり環境を変化させるため、千里浜周辺の生態系などの自然環境を把握して、環境変化の予測評価をしてほしい。
川村委員	砂浜の復元目標について	復元目標の設定	石川県の海岸がどうあるべきなのかを決め、その中で千里浜海岸としてどれくらいを目標とすべきなのか、そのためにどうすべきなのかを議論してはどうか。
玉井委員			量的な復元目標を設定するには、今回提出されたデータでは不足である。
川村委員			やはり、土砂動態の定量的な把握が重要である。
石田委員長			復元目標について、さらに部会で検討する。
石田委員長	総括		広域的な土砂収支を定量的に把握して、復元目標を設けて、保全対策についてさらに検討する。
中谷 オブザーバー	オブザーバーの意見		まずは現状を把握し、客観的に県民あるいは国民に説明できる客観的な復元目標や保全対象についての合意を取りつけていただきたい。
松井 オブザーバー			浚渫土砂の沖合への投入については、効果について学術的な根拠が大事だと思う。
小川 オブザーバー			総合土砂管理は古くからの問題であるが、いまだに解決していない。国でもデータは蓄積しているが、数値モデルを構築しても、計算結果の検証することが難しいのが現状と認識している。 一方、侵食は今も進行しており、応急的な処置でもすべきではないか。将来的にはそのモニタリングを県と国とで整合を取りながら実施することも必要では。
山崎 オブザーバー			金沢港の土砂を沖合に投入するという行為は、理論武装をしないと砂を捨ててるだけに見られてしまう。 また、投入した土砂の効果を定量的に把握するのは難しいと思うので、定性的にでも方向性が示せばいいと思う。
長原 オブザーバー			早く何らかの対策をして欲しいとの声もある。 千里浜海岸の保全は、県だけで対応出来ない面もあり、皆様方のご支援をお願いするとともに、今後とも、よろしくご指導をお願いしたい。